



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

とうきょう すくわくプログラム

活動報告書

久米川なかよし保育園

よつばぐみ（2歳児）

## 1 活動のテーマ

# 音

## 2 問いに答える

身近に聞こえてくる音に  
耳を傾ける

- 1 1月 身近な場所の音を聞く
- 1 2月 自然の音(葉)
- 1月 自然の音(川沿い)
- 2月 子どもの擬音を聞く
- 3月 もっときいてみよう

## 3 環境をデザインする 活動のために準備した素材や道具

- バケツ
- ふるい
- 紙コップ

子どもが聞こえる音に興味を持てるように、部屋の中の音や散歩先の音に耳を傾ける。紙コップを切り抜き自分の聞きたい音に集中できるようにもする。また子ども自身が聞こえた音を擬音化した声を聞いていく

# 4 探究活動の実践

ガリガリ石の道



葉っぱは



ざくざく

いっぱい集めたら大きな音になるかな!?



トントントン

なんの音?



木の話し声が聞こえるよ



ぷちぷち  
木の実



川は

ざあー  
ざあー



むしさん  
ねてるかな



## 5 振り返り

身近にある音から戸外の音までたくさんの音に触れることができた。子ども自身も「ぶーんってなんの音でしょうか？」など擬音をクイズにして遊ぶ様子が見られ、遊びの幅が広がったように感じた

大きい音、小さい音への関心が深まった。普段の活動の中でも『今はありさんの声かな？』『お歌は飛行機の声で歌いたい』と声の大小を自分達で認識し例えられる子もいた。

「自然の音を聞く際に友だち同士で、協力し大きな音にしようとする姿が見られた。1枚の葉っぱよりたくさんの葉を集めることで大きな音になりそのまま葉っぱのプールに発展もさせていて楽しそうだった。



手や足の全身を使って音を探したり、出したりしていた。直接、触れることで五感も刺激され様々な経験を出来ていたと思う。特に、秋冬はたくさんの葉や木の実を見つけられ触感も使っていた。

散歩先でも保育者に「今の音なに？」と興味を持つことが増えた。同じ音でも公園で聞こえる音と部屋で聞こえる音で子どもたちは違うように感じるときもあった。

音に興味をもち、楽器などに触れる機会も増えた。もともと、歌が好きな子たちだったので歌いながら戸外では木を太鼓に見立てて叩いたりしながら友だちと遊んでいた。見立て遊びにもつながっていき遊びも増えていたので良かった